

フレッシュマン・オカザキのインド通信

～ インド加工 最新ニュース ～

お世話になっております！日本での原石検品で黒さに深みの増した**オカザキ**です！
Mr.サトーからは「黒すぎてスーツが似合わない！」等、罵詈雑言を浴びさせられています。

今までも何度かご紹介していますインド加工工場。取扱い石種が大幅に増え**パワーアップ**させることに成功しました！今回は今までご紹介しきれなかった工場の詳細と最新情報をお届け致します！

こちらの工場、当初は大阪港向け工場としてご紹介しておりましたが、横浜港向けについても品質や納期、品揃えの面で優れているので、**厳しい見極めテストを経て**、新しく加工を任せることになりました！元々アメリカ向けの墓石生産をやっていて黒も白も扱いは慣れており、弊社との取引開始に際しても試験段階から日本向け工場の管理者を複数名追加採用し、万全の態勢です！

取り扱い石種は黒系を中心にニーズに合わせて安価なものから定番のクナムはもちろんLK-01も揃えました。ラインナップはこちら！

〈黒〉

クナム：現在PS丁場というところの石を使用しています。目、色は一般的なクナムといった印象です。今後どのクナムを使用するか話し合っていますのでまたご報告致します！



**LK-01：言わずと知れた高級細目黒石種です。丁場は現在良材出ておらず
停産中ですが 在庫あります。弊社は中国に委託原石もあります。**



カルサヌール：クンナムの代替として長年扱われてる石です。



**PBL(ペランバルール)：LK-01の代替として使われています。東北のお客様より
こちらの発注も頂いています！**



VPM：青みがかった安価黒石種です。ダークであれば黒として問題ありませんし、何と
いっても価格が魅力的で、個人的にオススメです！関東のお客様より発注頂いています！
色の濃さでダーク・ライト・ミディアムに分かれます。



G-20：こちらも安価な黒ですが、他にはあまり見られない独特な目合いです。以前は
B0-5と呼ばれており建築材としても使われています。



〈中間色〉

PP-4：比較的目の細かい、濃いめの中間色です。北陸のお客様より以前発注頂いていま
す！ダークとライトがあります。



TVM：こちらの工場一番と言っても過言ではないオススメ石種です！インドインパラ系の目合いです。色目はダーク、ミディアム、ライトと分かれています。それぞれ違った良さがあります。工場と丁場との関係が特に強く、**価格も安いです！**山陰のお客様より発注頂きました！



バハマブルー：流れの美しい、洋墓にもってこいの石種です！全体的に青みが入っており、赤い粒子が素晴らしいアクセントになっています。



カドゥールレッド：ニューインペを細かくしたような印象です。赤み強いです。



C-1(GJ グリーン)：写真ではわかりにくいですが、緑が強く、細目で綺麗な石です。



M-6：緑系中間色粗目の特徴のある目合いです。アメリカで人気があったようで長年取扱っています。



M-3H：最近になって中国への発注が増えてきた石です。単価調整したのでお求めやすくなったかと思えます！



M-1HR：粗めですが目はしっかりとM-1Hです。魅力のある単価かと思えます！



<グレー>

アーバングレー：人気の石ですが、値段は極力抑えました！



いっきにご紹介しましたが、他にも M-10、カラハリなど新規石種どんどん増やしていこうと思っています！サンプルなどのご用命は弊社担当営業員まで！

更にうれしいニュースも！

**以前の工場では、手磨きのバフは韓国製もしくは中国製を使っていましたが、こちらの工場は弊社との取引に際し、日本製の高品質バフを大量に購入してくれました！
私たちがまだ何も言っていないのに用意している…
非常に信頼できる工場です！
また最新情報入り次第お知らせ致します！ご期待ください！**

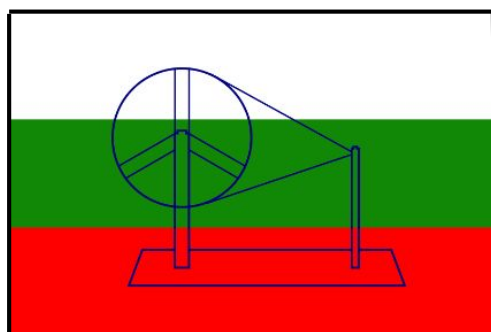


国旗に込められた想い

今回は工場ネタが長くなってしまいましたので、インド小ネタをさらっと紹介します。みなさんはインドの国旗にどんな意味が込められているかご存知でしょうか。私は考えたこともありませんでした(笑)

そんなインド国旗に秘められた想いを皆様にご紹介します！

インドの国旗は、1947年にイギリスの植民地から独立した際に今のデザインになりました。それまでに何度かデザインが変わっているのですが、最初の国旗デザインを提案したのは、なんとあのガンジー。イギリス支配下からの独立を目指したマハトマ・ガンジーは、1921年にインド国民会議に対してスワラージ（民族自決・自治獲得）運動の象徴としての旗のデザインを提案しました。最初の旗は白・緑・赤のストライプに、スワラージや英貨排斥（イギリス製製品を排除する、機械文明に対抗）・スワデーシー（国産品愛用）の中心であった「糸車運動」に使われた独立の象徴とされる糸車をデザインしたものでした。1931年に国民会議は新たなスワラージ旗を策定され、それは現在のインド国旗と同じサフラン・白・緑のストライプに、青の糸車を配したものになりました。



↑1921年



↑1931年

1947年8月にインド連邦として独立することとなり、インド国旗の制定作業が行われ、仏教のダルマ（法）を意味するアショーカ・チャクラを配することになったそうです。サフラン色はヒンドゥー教。緑は イスラム教の伝統色。白は2大宗教勢力の融合の象徴と和解の精神を表すといわれています。

公式には、オレンジ（サフラン）は勇気と献身、白は生命と平和と真実、緑は公正と信仰の色とされています。中央にはガンジーによるインド独立のシンボルの法輪（チャクラ）を排しています。今現在も異教徒間の対立はありますが、国旗にはそんな深い想いが込められていたんですね。



如何でしたでしょうか。雑学ネタでした。ではまた来月まで！